

国道494 改良要望を

問

野村

494号線は愛媛県から比べると、高知県は改良工事が非常に後れている。33号の代替線として利用価値は高い、早急に改良要望を。

答

町長

県土木事務所では、大西工区の整備と併せて地元要望ヶ所の優先順位などにつき、町と協議しながら、局部的な改良手法で整備を進める。改良促進に向け関係機関への要望活動を行う。

ペレット大量生産を

答 森林資源の活用

問

藤原陽三

二回目の仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議が開催され、産業振興の方向性や重点施策が提案された。

間伐促進、「ソニア」を核とする木材産業の振興、観光情報発信拠点の設置などで、林業は難問が山積しているのが現状である。

「ソニア」は三セク方式が断念せざるを得ない状況のなか、木質チップの需要が高まり、県も木質バイオマスの取り組みを将来に向けた基礎となる仕込みであると23年度予算計上している。

中東問題、環境問題のなかで、化石燃料に代わる新エネルギーの需要が高まるなか、間伐を促進してペレットを大量生産し、消費に結びつける努力をすべきである。

答

町長

本町の9割を森林が占め、間伐の促進、木材産業の振興は重要な課題だ。

森の工場による集約化、林業の推進に力を注いでいる。森林資源は地域活力の源となり、環境面からも重要である。「ソニア」は県の指導

を基に新しい形での経営形態を模索している。木質バイオマスの活用という観点から、森林資源の付加価値を高めたい。森林総合研究所、NP

O、まちづくりグループを中心に、地域の振興に取り組み、ペレットの製造など、幅広い森林資源の活用を考え、地域の林業振興につなげたい。



中津 明神



茶園の荒廃に産物を

答 先進地研修

問

橋本眞一

近年、生茶の価格低迷や生産者の高齢化により茶畑の減少、荒廃が進んでいる。生産の最盛期と現在の生産者数、生産高の推移を聞く。

答

町 長

昭和60年頃の販売農家数1027戸、収穫面積21㌔、平成17年は販売農家数207戸、収穫面積96㌔となっている。

問

橋 本

面積、売上高も減少し、荒廃した農地に、次の作物などの考えはないか。

学校給食でも地元食材を使用するようだが、高齢者も栽培できる作物などの指導はできないか。

議会も農林業の先進地研修を深めているが共に研修はできないか。

答

町 長

本町ならではの作物は、いろいろ検討はしているが、目新しいものは無い。トマト、サカキ、シキビなどの生産にも取り組んでおり、農林業プロジェクトチームも先進地研修を重ね、本町の産物づくりを検討している。



荒廃の進む茶園

問

山口芳正

信頼と協働を基本に五つの方針を掲げ、自立したまちづくりに全力を注ぐと述べている。

合併後の人口は5年間で878人約11%減少した。

39年後人口削減

答 若者定住支援



答

町 長

信頼と協働を基本に五つの方針を掲げ行政運営にあたっている。本町は過疎高齢化の最先端にあ

年間176人の減少でこのままでは39年後に本町の人口は消滅する。町内の小学校は220人、中学生は131人の見込みで統合も大きな課題である。特に庁舎等の施設整備は幅広い視点で、旧意識を超え現存施設の有効活用、無駄のない行政を通じて合併の効果を発揮されたい。

り、さまざまな課題に対応し、合併支援措置を無駄にすることなく最大限に活用することが使命である。受益効果が薄く財政負担が予想される施設は整理し、必要な施設の整備は支援措置内に確実に実行し、本年度は学校再編や庁舎建設などの検討を加速させたい。集落機能の補完的施策、若者定住支援も充実させたい。

住民の声を大切に、議会や住民代表者とも話し合い、町の均等ある発展を検討したい。



役場本庁舎

建設工事の発注

答 公正・公平に

問
山口

23年1月現在（建通新聞社資料）の建設工事落札高は吾川34件4億8031万円約49%。仁淀24件4億2694万円44%、池川17件7167万円7%で合計75件9億7892万円。地域格差が非常に大きく、雇用不安の声も聞く。
町は今後工事発注や指名方法をどのようにされるのか。

答
町長

町発注の国、県の工事を取り入れ考える。年度により災害発生が違うが均等に務める。地域貢献や信頼度など地域性を重視して、地域の実情に応じた発注指名を行い公正、公平な運営に努める。



早期改修を

道路整備

答 情報を受け、対応

問
山口

494号町内区間の改良促進を図れ。
町管理道の防護柵の痛みや立木伐採による危険ヶ所、宗津地区の舗装路面陥没は激しく地滑りを心配する。
地域住民が安心して暮らせる道路の管理は。

答
町長

494号の町内約17kmの改良率は13%と低い、迂回路効果もあり国、県に重要性を強く要望する。
密着した町道や林道、農道の総延長は約740kmで管理は厳しい。地域の協力で良い管理方法を見出したい。
防護柵は情報や要望を受け対応し、舗装路面の維持修繕ヶ所も区長やコミュニティバスなどから情報を受けて、今後善良な管理に努める。